

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801045		
法人名	社会福祉法人 綾友会		
事業所名	グループホーム 桜の丘		
所在地	熊本県上益城郡甲佐町西寒野1151-2		
自己評価作成日	令和6年9月24日	評価結果市町村受理日	令和7年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の状態の変化に速やかに対応できるように協力医療期間との連携もあり、安心して暮らして頂けるホームである。  
 緑豊かな環境の中、木造平屋作りのホームで、ゆったりとした造りで、広いリビングがあり、ガラス戸越しに、テラス、庭へと続き開放感がある。  
 気候の良い季節には近隣ドライブを計画しホーム外での楽しみを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム名「桜の丘」の名の通り桜の開花を法人全体で愛でる事が出来る。開設時より法人の営繕担当職員の支援と共に、家族の奉仕作業や梅ちぎりの前には入居者自ら草取りに精を出すなど多くの関わりにより環境が整備されている。コロナ禍中は外出を控える事を余儀なくされたが、敷地内の散歩は継続され5類移行後は対策を施しながら多種の花見見物をはじめ、神社参拝や足湯で寛ぐ、カラオケで歌を披露し合う等地域資源を活用した外出支援が再開されている。旬や希望を生かした職員による手づくり食は継続され、入居者の日常を更に楽しみなものにしている。職員は入居者の傍らに腰を下ろし耳を傾けており「たいせつな人の大切な時間によりそう」パンフレットに記された介護が実践されている。来春には開設20年を迎えるが今後も地域の中で新たな年月を重ねていられる事に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	桜の丘のCREDOをフロアーに掲示し、おひとりおひとりの生活の継続性を大切に日々の支援に取り組んでいる。	ホーム内の目に付く所に職員の行動規範を掲示し、各自が理念や行動規範が示されたハンドブックを携帯してケアにあたっている。活動とコミュニケーションの両立を図り、本年度の目標を「出かける機会を作る」としている。朝の申し送りは大型のテーブルを囲んで入居者と一緒の所で行い、一日のスタートとして定着している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣へ外出したり、地域の神社で開催されるお祭りへ出かけたりしている。定期受診は地域のかかりつけに出掛けている。	地域の清掃活動に職員が参加し、公道に続く市道の掃除には月1回当たっている。施設長やホーム長は運営推進会議でもたらされる地域情報が入居者が地域へ出る機会を後押ししてもらえているとして、寄せられた花見学や神社行事などには出来る限り出向くようにしている。中学生の福祉体験が今年度は実現しており、生徒からの歌のプレゼントや会話を通して世代間交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験や実習生、地域のボランティアの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催して。利用者の状況・行事報告を行い、そこで出たご意見を反映している。	法人の地域密着型事業所との合同会議となっており、行政や地域、家族の代表者が参加して、年度初回には改めて会議の意義や展開について話をしている。ホームの活動報告はスライドを使い画像で紹介し、法改正に伴う話や、地域密着型の会議として町に特化した様々な行事や祭りの情報などが紹介されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年6回運営推進会議に区長、老人会長、家族代表者と行政職員も参加いただきケアサービス状況を伝え協力いただいている。	運営推進会議に参加する行政とは良好な関係性を築いており、会議では地域からの情報に出来る限り入居者と共に「外出されていることにも評価をもらっている。事故報告書の提出や制度上不明な点があれば質問したり、認定調査時には入居者の普段の姿をありのままに見てもらい、正しい情報を伝えるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本体施設の身体的拘束適正化・虐待防止対策委員会に参加して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は夜間のみ施錠している。	身体拘束、虐待防止については法人の委員会に参加し、定期的な研修の機会や月の会議で日々の支援を振り返り、該当事例が無かったことなどについても検討する時間をもっている。言葉は馴れ合いの表現に注意を払い、入居者がわかられる熊本弁を使いながら対応している。センサーマットや人感センサーを利用する方には家族に説明と了承を得てプランに入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本体施設の身体的拘束適正化・虐待防止対策委員会に参加している。スタッフ会議でも学ぶ機会を設けている。職員間のコミュニケーションを多く持ち一人で抱え込まない環境づくりに心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を必要と思われる対象者はいない。今後必要時は、本体施設の社会福祉士に相談し、さらに地域包括センターに相談を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、家族連絡後ホームにて重要事項説明了承後契約を行っている。解約時には、退去後の支援について説明を行い、家族の不安を解消出来るように努めている。改定の際にも、家族会や面会時に説明を行い、理解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には入居者の日々の様子をお伝えし、安心していただくように声掛けを行っている。	職員は入居者に変化があればすぐに連絡を行い、経過報告により安心してもらうようにしている。運営推進会議や面会時、担当者会議で意見や要望を収集している。入居者の要望は普段の関わりの中で聞き取り、「外に行きたい」との希望には周辺を散歩したり、椅子を出して外気に触れてもらう支援を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	企画管理委員会(月1回)、運営推進会議(2ヶ月に1回)を行い、意見や提案を聞いている。 (月1のスタッフ会議は全員参加としている。)	法人の企画会議に参加するホーム長が情報を持ち帰り月のスタッフ会議で報告、共有するようにしている。会議には全職員が参加し、伝達漏れが無いようにしており、夜間帯になかなか眠れない入居者にどういう場合によく眠られたかなどのケアについての共有が図られている。希望休や有休、リフレッシュ休暇など、誰もが取りやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度を導入している。各自が自らの力を発揮し、成長を実感できるよう目標をたて取り組めるように職員面談を実施し支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の職責に応じた研修会の機会を作り、参加調整行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内や郡内の同業者の会議に参加するように努めている。また、郡内の同業者とはLINEグループにて情報を共有することがある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年度から本年度にかけて入退居4名あり。家族や、入居前の施設職員に情報提供を依頼して、安心して暮らせる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後家族に連絡や面談し、御家族の意見・要望など確認し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランを作成して、家族の同意を得ている。又、状態の変化ある方は経過を見ながらケアプランを変更作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を入居者に声掛けし、一緒に行っている。個々に出来る事や得意なことを依頼し、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に参加していただく行事は計画できていないが徐々に再開出来るよう工夫していきたい。スマホのLINEを活用し、敬老会にはご家族からのビデオレターをもらったりできた。グループホームの広報誌は2か月に1度作成し発送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや受診など出掛けた際は自宅近くに立ち寄ったりしている。	かかりつけ医の受診には入居者と1対1、もしくは2対1で出かけ、馴染みの医師の支援を受けている。時には自宅に立ち寄り安心されたり、車窓からの景色も馴染みとなっている。地域神社の祭りやどんどやなど、入居者に懐かしい行事に足を運び理容店からの散髪支援も定着している。家族の面会時には玄関内に入居者の写真を貼り、感染症等で入室がままならない場合にも直近の写真を見もらうことで安心してもらうこととしている。	ホームでは入居者の馴染みの飲み物や日々の新聞読みなど日常の些細な部分に焦点を当て対応しており、職員の気づきが入居者の馴染みの生活を支えていくことに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係が円滑になる様に職員が見守り、関わり合い支えあえる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の確認に努めている。把握困難時は以前の生活習慣、生活歴など考慮し状態や表情・行動から本人の視点にたち思いや意向を汲み取り、出来るだけ意向・希望に沿えるようにしている。	職員は入居者の思いを改まって聞くのではなく話の中で出た言葉から引き出し、プランにつなぐようにしている。入居者の「ここは自然がいっぱいあってよか！」の一言は率直な思いとしてプランに入れ、庭の散歩中に自然に触れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居の際、前の施設などからの情報、御家族等からの情報収集し、生活歴、生活環境等、今までの暮らしの把握に努めスタッフ間で情報を共有出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレット(総合記録シート)や申し送り時を活用し現状の把握に努めている。またご利用者の出来る事わかることを職員間で共有し楽しみを持って生活出来るような支援できるように努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族の面会時に要望を聞いている。スタッフの気づきや意見をもとにプラン作成している。必要時は管理栄養士、PTなど専門家に意見を聞いている。	入居者を職員の担当制としており、月のモニタリングには職員の提案が反映されている。退院前のカンファレンスではその方にとって最良の方法を検討し、担当医の「一度環境を変えてみますか？」との提案に再びホームでの生活に切り替え、馴染みの環境が食への意欲や歩きだしに繋がるなど関係部署と連携して支えている。入居間もない方には1か月後の評価で入居者の新たな力を見出し、プランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット(総合記録シート)に日々の様子などを記入し、職員間で共有している。ケアの変更必要時は総合記録シートと申し送り簿に記入し把握。ケアプラン作成時に活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりにあったその時のニーズに応じて家族資源、地域資源活用しできるだけ希望に沿えるように柔軟性をもって支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にも徐々に参加し始めていき、生きがいを持って頂けるように努めたい。必要に応じて、併設施設のPTや管理栄養士、協力病院のPTに助言、指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診している。受診が困難時は電話診察を行っている。変化があれば、都度、主治医、御家族に相談し、必要な病院への受診の支援をしている。	入居者全員が母体医療機関をかかりつけ医とし、月1～2回受診に向いたり、訪問診療を受ける方もおられる。受診結果や薬の変更など何かあれば家族へ報告している。町外の受診は家族の対応を依頼しており、結果を共有している。歯科は必要時に受診に出ており、日常では個々に応じて食後の歯磨きを出来るだけ自身で磨いてもらい、必要に応じて仕上げをサポートしたり、義歯管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化や総合記録シートの中から変化が確認できた場合は看護師に相談し必要に応じて受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活情報を伝える。病院の連携室、病棟NSと情報交換や、必要時にはDr.より説明を受け、安心して退院できるように連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には看取りの説明を行い事前指定書に記入していただき、状態変化時には再度確認を行っている。重症化しホームでの対応が難しいとなった場合に、家族と話し合いを行い、納得して今後の方針を決定している。	入居時に重度化・終末期支援に関するホームの取組を説明し事前指定書を受け、その後状態変化時に再度確認している。ホームの対応が困難になった場合、今後の方向性について家族と話し合う時間を設けている。直近では看取り支援は行われていない。	体調を崩し医療機関での最終となることも想定された方が、ホームでの生活に戻り元気になるなど、本人にとって最良の場所となっていることが伝わってくる。今後も日常の関わりを大切に支援を継続願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や勉強会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練、日曜日には地元の消防団の見回りがある。月に1度は部署内の災害発生時の訓練等を行い防災意識を高めていきたい。3日分は備蓄できるよう準備している。	年2回の総合防災訓練を実施しており、夜間想定での訓練では、実際職員1名での避難・誘導は困難であることなど改めて課題に挙げている。2回目は11月に予定されている。ホーム内外の安全チェックは、安全衛生委員が中心になってすすめている。BCPIについては法人を基本とし、ホームだけの項目を設け職員間の共有を図っている。備蓄は3日分を確保している。	月1回職員会議の前に机上訓練を行う等、防災意識を高く持ち有事に備えている。今後も法人との連携や地域との協力関係により入居者の安全管理に努めていただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重した言葉遣いや接し方が心がけている。特に入浴時、排泄時には羞恥心に充分配慮している。	アットホームな雰囲気の中で入居者に寄り添うケアに努める事や、入居者を尊重した言葉使いなど会議や日々の業務の中で共有を図っている。呼称は苗字の他、反応などから下の名前で対応する時は家族の了承を得ている。入浴後や起床時の整髪、外出時の衣服は本人と一緒に選んだり必要なサポートにより本人らしい身だしなみを支援している。広報誌への写真の掲載など個人情報の使用については承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の意向や思いをくみ取るよう努めている。特に食べ物や飲み物は嗜好に合わせ本人の意思の確認や、選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を尊重し、確認しながら一人ひとりのペースを大切にしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時は、職員が共に洋服を選び支援している。衣類など不足あった場合は御家族に連絡し補充している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1度はイベント食やおやつ作りを計画。一人ひとりの能力に合わせて手伝いの依頼を行うようにしている。苦手な食材は出来る限り代替えを提供している。	調理担当職員は旬の食材や入居者の好みを取り入れた献立を作成し、法人管理栄養士のアドバイスを受けている。家庭的な料理や行事食、1日や15日には赤飯の提供などホームの食事は入居者の楽しみとなっており、嚥下力に応じた食形態で準備されている。梅ちぎりの前には草取り、収穫後は梅シロップにしたり、饅頭やクッキー、巻き寿司や餃子作りなど入居者の出番が頻繁に用意されており、入居者は毎回「上手くできるとか！」「昔はよ～作りよった！」など話しながら手際よく取り組まれるようである。	今回の訪問でも入居者の楽しみとなる食事支援が継続されていることが聞き取りや記録写真からも確認された。今後は普段の食事内容についても広報誌などで紹介されることで、更に家族の安心につながる事が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい形態での提供や好まれる物の提供、補食、水分摂取に努め、体重増減にも充分注意している。食事、水分量は記録行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。出来るだけご自分で磨いていただき、不足部分や仕上げは介助している。義歯使用者は洗剤など使用し義歯の洗浄消毒を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のトイレサインをスタッフ間で情報共有し出来る限りトイレでの排泄を支援している。訴えが少ない方に関しては、排泄の間隔が長くないように確認行っている。必要時にはパットの種類の検討をして対応している。	個々の排泄状況を職員間で共有し、昼夜トイレでの排泄を基本として支援している。日中は共用の洗面台を使用されているが、夜間の排泄後は居室の洗面台で手洗いを済まされている。排泄用品はホームで準備しているが、家族が面会を兼ねて持参される場合もあり、サイズ等についてアドバイスしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養課や他部署と連携し食物繊維やオリゴ糖などを個々の症状にあわせ取り入れている。必要時毎月ある排泄ケア委員会で検討しアドバイスもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や体調に合わせて入浴を勧めている。拒否のある方には、次の日へ変更や時間をずらしたり、職員を交代して入浴していただいている。	入居者の希望を確認し体調に配慮しながら主に午前中の中の入浴支援が行われている。拒否のある方には無理強いせず時間をずらしたり翌日に変更している。身体状況からリフト浴を使用される方もおられるが、殆どの方が湯舟にゆっくり浸かられている。菖蒲や柚子の季節湯も継続しており、全員が楽しめるよう3日間準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお手伝いや運動などで活動していただき夜間には入眠できるようにしている。また、本人が望まれる場合には夜間に影響しない程度に日中も休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服用されている薬の勉強会を行い、副作用等について理解するように努めている。内服の変更があれば口答以外にも申し送り簿タブレット(総合記録シート)に記載し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が昔していた事や得意なこと、興味のあることなどを、日々のお手伝いやレクリエーション活動につなげ、張りのある生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関には施錠はせず出かけられる方には見守りを行い、様子を見て声掛けをして気分転換を図るように努めている。気候が良い時には外出行事を計画している。	敷地内は家族会の奉仕作業、法人の環境整備担当職員の協力も得ながら入居者が気軽に散歩や日光浴、菜園活動ができるよう取り組んでいる。桜や菜の花、菖蒲、蓮、ひまわり、彼岸花、コスモスなど季節の花見は敷地内やドライブを兼ねて見学に出かけている。また、近隣温泉(佐俣の湯)での足湯など地域資源を活用した外出や年に一度のホーム内ワックス掛けの日は、ランチを楽しみカラオケを体験するなど楽しい時間を過ごすことができたようである。	町のイベント「鮎まつり花火大会」を、高台にある母体特養の玄関先から眺めるなど日中以外でも外出が支援されている。花見は数多く季節を楽しむ機会となっており、今後も地域や家族の協力を得ながら入居者の希望に応じた外出支援に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	オヤツや食材の買出しに職員とショッピング楽しまれ、財布を渡しレジの支払いをお願いなど今度再開していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の携帯電話がある為、希望時には話して頂き、手紙や贈り物が届くと本人に渡し、家族へ連絡して話をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はゆったりした空間が広がり、リビングの大きな窓ガラスからは外の風景が見られ開放感を感じられる。	来年開設20周年を迎えるホームは当初からホーム内の環境整備に努め、日頃の掃除や換気の徹底に加え年に一度のワックスがけによりきれいな床が保たれている。日中は共有の洗面台を使用されることから使いやすいよう歯磨き用品などが置かれている。共用空間は食事スペースや体操などのレクリエーションスペースに分かれたゆとりの空間であり、掃き出し窓の大窓も更に開放感をもたらしている。玄関をはじめホーム内は庭先に咲いた草花や、入居者の書、手芸が得意な職員の作品等が飾られている。	入居者の居室は3コーナーに分かれていたり、大きな窓ガラスなどゆとりの空間であることから、環境整備は時間を要すると察するが、変わらぬ職員の取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや庭など好みの場所でそれぞれの時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が使い慣れた家具などを持ち込まれたり、配置を考えられる。写真や思い出の品を飾るなど本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	入居の際にリストをもとに居室内の設置品(エアコン、洗面所、テレビソケットなど)や衣服、寝具類、これまで使用していた家具、お気に入りや趣味の道具などの持ち込みについて説明している。衣類など最小限必要な品を持ち込まれた方や仏壇や家具、写真など自宅にあった品を多数持ち込まれた方もおられる。押入れは広く季節外の衣類や寝具の持ち帰りが困難な方も多くの収納が出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台は居室と共有スペースにある。居室前に大きな文字で表示するなど個々の応じて居室がわかるように工夫している。ソファ、椅子など、出来るだけ自分で立ったり、座ったり出来るような作りとなっている。		